

適切に倉庫の管理をしたい

Q. 倉庫の管理ができていない。どこに何があるのかも個人の記憶に頼っている。どうすればよいのか？

要旨 倉庫は、生産や販売活動と比べると直接収益を産む部門ではないため、経営者の関心が低くなりがちで倉庫の担当者に任せきりということも少なくありません。この場合、他の関係部門の協力も少なくなり、倉庫における業務が非効率となり余分なコストがかかっていることがあります。経営者が倉庫業務に関心を持ち、全社で協力して倉庫業務を効率化することが必要です。

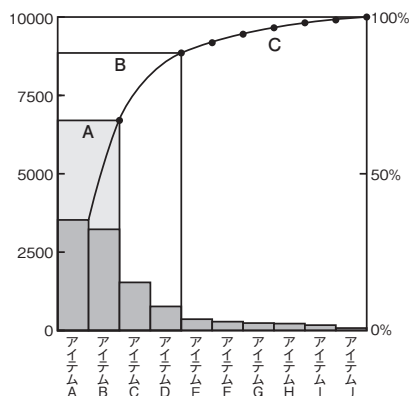
解説

1. 不要な在庫を処分する

倉庫を適切に管理していない場合は、倉庫内に不要な死蔵在庫が多量に存在することがあります。品目別に在庫を“期間”で表現することで、在庫がどれだけ多量に存在するのかを評価することができます。例えば、在庫期間が1,200日分であれば3年以上の在庫を保有していることになり、不要な在庫であることが明らかです。在庫を売却や廃棄することは、倉庫担当者の判断だけではできないことが多いので、経営者が思い切って判断することが必要です。

2. ABC分析による重み付け

品目を出荷頻度順に並べ、出荷頻度とその累計をパーセンテージで集計し、グラフ



〔ABC分析例〕

に表します。一般的に約2割の品目が全体の8割を占めると言われています（パレートの法則）。品目をA、B、Cランクに分けて、ランクの高い品目ほど、出荷作業場所に近い場所で保管することにして、作業効率を上げます。

3. ロケーション管理

ロケーション管理では、ホワイトボードやエクセル等を活用して、どのロケーションに何の品目があるのかを分かるようにします。ただし、品目数や出荷頻度が多くフリーロケーションだと、管理に手間がかかり人手による管理では限界があります。そこで、バーコードシステムを活用した在庫管理システムを活用することで、ロケーションと在庫数の管理を効率化することを検討します。

倉庫の管理方法

<ご提案のポイント>

- ・ものの保管場所が明確になり、探す手間を省くことができます。
- ・まず、現在保有している在庫を“期間”で把握し、不要な在庫を減らします。
- ・ABC 分析を行い、品目ごとの保管場所を設定します。
- ・品目別のロケーションを設定して共有し、何がどこにあるかを明らかにします。

1. 現在保有している在庫を“期間”で把握する

現在、倉庫で保有している在庫を品目別に集計し、“期間”で把握します。例えば、日当たりの需要が10個の品目が100個あるとしたら、在庫期間は $100 \text{ 個} \div 10 \text{ 個} = 10 \text{ 日}$ となります。在庫期間が必要以上に多い場合は、売却や廃棄することを検討して、倉庫を有効利用できるようにします。

2. 品目別の重み付けを行う

品目別に、出荷頻度でABC管理を行い、重み付けを行います。出荷頻度の多い品目を出荷作業場所の近くに置き、頻度が少なくなるほど遠くに置くことで、作業動線を短縮させます。この時、作業者が渋滞しないように、作業動線を考慮して置き場所を決めます。

3. ロケーション管理を行う

倉庫内の全ての置き場所（棚、パレットラック、床等）に文字と数字でロケーションを割り振り（例：B-03-3）、どの品目がどのロケーションに保管してあるかを常に表示するようにします。在庫の保管ルールは、大きく分けて「固定ロケーション」、「フリーロケーション」、「ダブルトランザクション」の3種類があります。「固定ロケーション」は、品目ごとに保管する場所を固定する運用をします。どこに何があるのかが覚えやすいですが、場所が空いていても他の品目を置くことができないため、保管効率が悪くなります。「フリーロケーション」は、品目を空いている場所に置いていく運用をします。保管効率が上がる反面、置き場所の管理と探すのに手間がかかります。「ダブルトランザクション」は、ピッキングエリアとストックエリアに分けて、ピッキングエリアは固定ロケーション、ストックエリアはフリーロケーションで運用します。ピッキングエリアに少量の在庫を置くことで、ピッキング作業の効率を上げることができます。反面、ストックエリアからピッキングエリアに補充する手間がかかります。

出荷数が安定しているのであれば固定ロケーション、品目や出荷量の変動が大きい場合はフリーロケーション、出荷頻度が高く少量で移動しやすい品目はダブルトランザクションが適しています。自社の商品特性に合うロケーション管理方法を選択してください。